

企業名：群馬銀行(8334)

レポート名：群馬銀行レポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

群馬銀行の目指している将来の姿としてパーパスに基づいて地域社会と群馬銀行グループの持続的発展を目指して、「つなぐ」と「つむぐ」を実行していくというのを掲げている。パーパスとは（私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます）というものである。「つなぐ」というのはお金の貸し手と借り手をつなぐだけではなく、地域、企業、人々を繋ぐことや、群馬銀行がもつサービスや情報などを通して価値と価値を繋ぎ、新たな価値を生み出すことである。つむぐというのは群馬県といえば富岡製糸場であるがこのような郷土の歴史を大切にしつつ、地域の未来を豊かに紡いでいくということである。この群馬銀行レポート 2022 にはこのようなパーパスを達成するために群馬銀行が 2022 年 4 月から掲げている中期経営計画「Innovation for ‘purpose’」がありその三つの基本方針では「つなぐ」や「つむぐ」に関する方針が述べられている。「つなぐ・つむぐ」の基盤となるデジタル戦略の遂行」「5 つの改革による「つなぐ」力の強化」「つなぐ」力の発揮により未来を「つむぐ」である。一つ目の方針では中小企業などのデジタル化を支援したりして地域のデジタル化をおこないつないで地域社会の発展へ、行内業務をデジタル化することで業務の効率化を進めて群馬銀行のさらなる発展を目指すことが読み取れる。二つ目の方針では、以前の改革に外部連携を追加してさらなるつながりを強化することが読み取れる。三つ目の方針では地域の脱炭素化などのサステナビリティの実現に取り組むことや新事業の探索を通じて地域の未来を豊かに紡いでいこうという内容が読み取れる。またこれらの基本方針以外にも個人パーパスというものを自律的に柔軟にひとりひとりの役員に定めてもらうことで各自が価値の創出を積み重ねていき、やがて地域の豊かな未来につなげていくことできるということも述べられており、群馬銀行が目指す将来の姿の実現のためにしっかりと方針を固められていることを読み取ることができる。よってこの会社の目指す姿は明確に理解できる。さらにいうと群馬銀行レポート 2022 の中でも述べられているが「つなぐ」「つむぐ」という言葉は私たちにも理解しやすく親しみやすいもので簡潔でありとてもよい採用であると考えられる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

群馬銀行の競争優位性について理解できた。目標の中にも地域をつないで豊かな未来をつむいでいくとあるように地域密着型であるのが強みである。中心としては群馬県で関東に店舗を展開している。群馬県では 111 店舗、埼玉県では 23 店舗、東京都では 9 店舗である（神奈川、群馬などにも）。地域密着型の強みとしては顧客との信頼関係を築きやすく

なり継続した顧客を獲得することができることや狭い範囲なので顧客のニーズに細かく応じることができるということである。群馬銀行レポート 2022 の中から地域密着型の取り組みで地域への貢献として読み取れることとしてまずは地域の脱炭素化を促していくために温室効果ガス削減目標の建設、地域のサステナビリティを促進していくためにSDGs、ESGへの取り組み、県内自動車産業の支援、第四北越銀行や足利銀行との連携協定を結んで地域活性化、地域活性化包括連携協定で群馬県内自治体との連携、尾瀬保護財団への寄付、群馬銀行環境財団の活動、ぐんま地域共創パートナーズの結成などが読み取れる。また個人のお客さまへの取り組みとして個人の安定的な資産形成を助けるために個人向け貸し出し業務や預かり金融資産業務を行い、お客様の相談を受ける「個人相談プラザ」の拡充などや 62 ページにはお客様満足度向上にむけた取り組みが書かれていて、お客様に対しても取り組みをしていることが読み取れる。これらのように地域に大きく貢献して、お客様に対してのサポートも行い、結びつきを強くして地域密着型であることがレポート内から読み取ることができ群馬銀行の競争優位性が理解できた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

このレポートの中には計画期間 2025 年までと定めている中期経営計画「Innovation for ‘purpose’」でこれからも「つなぐ」「つむぐ」の実現の継続、また SDGs 宣言、地域の発展を続けていくという内容が読み取れ、今後も地域とのつながりを大切にしていくことが読み取れて競争優位性は持続していくと理解できる。売り上げを見ても経常利益と経常収益が 2021 年から 2022 年では大きく上昇しておりこのまま地域に貢献する活動を続けていけば利益は上昇していくと考えられる。これらから競争優位性の持続は理解できる。

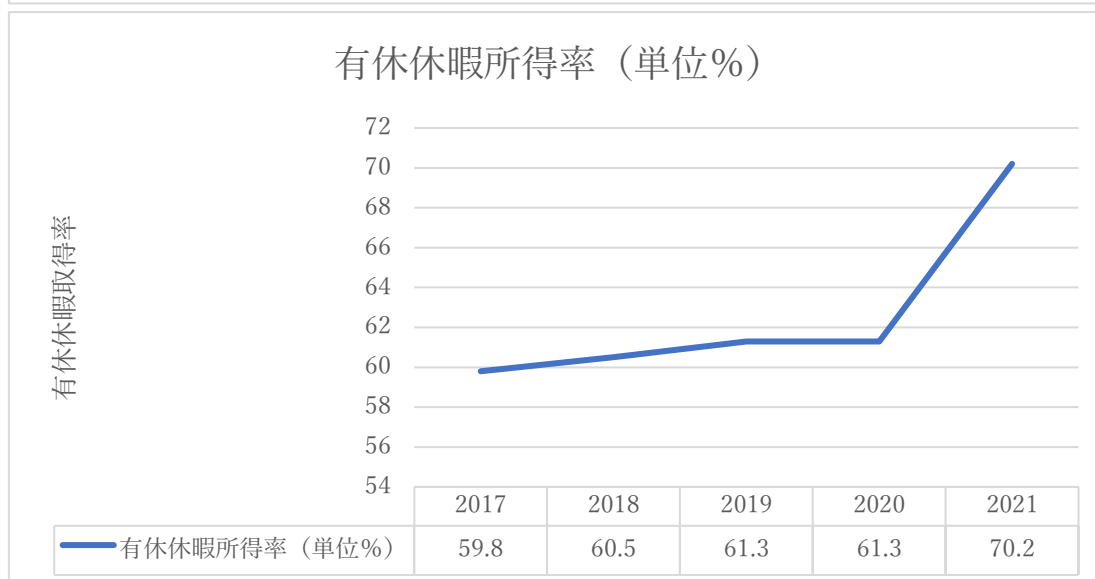
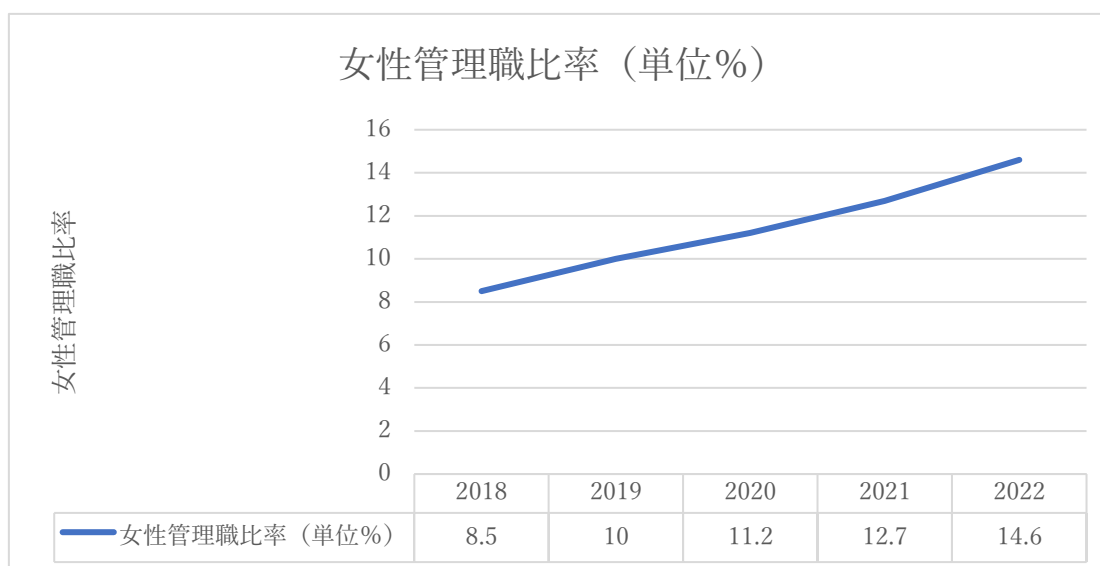
(参考資料)

[2022 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕\(連結\) \(gunmabank.co.jp\)](https://www.gunmabank.co.jp)

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

群馬銀行レポート 2022 の中の 42 ページには専門分野をめざすきっかけを作り専門人材の育成を目指した「専門人材育成計画書」について書かれている。これは習得するスキルや専門知識などを記載して全行員へ開示することによって専門分野を目指すきっかけを提供するものであり、毎年更新されている。また行員がより一層前向きに、働き甲斐を持って仕事に取り組めるようにするために、1on1 ミーティングの中で上司が部下の成長を支援するとともに、人事部員が個別面談をすることでキャリア形成をサポートしている。これらの内容から創造力発揮にむけた人材改革がよみとることができそれぞれが一定の範囲にとられることなく様々な可能性を提供してくれる環境が整っていることがわかり自身の人的資本の価値向上を達成できると考える。また多様な働き方ニーズにこたえるインフラ（制度、設備等）の拡充も進めていき、行員の健康問題に関する取り組みもしている。そしてダイバーシティ、インクルージョンの推進により女性、シニアなどの多様な人材が活躍できる機会も創出している。例えば、女性管理職比率は下のグラフで示したように 2018

年と比べて 2022 は 6,1%も上昇している。この率はまだ高いとは言えないが年々ずっと上昇していることから女性の働きやすい環境が整えられていると考えられる。有休休暇取得率も 2021 には 70,2%と大きく伸びており働きやすい環境が整えられていると考えられる。このようなことから人々がのびのびと働きやすい環境が整えられていることがわかり人的資本の価値向上へつながる働く環境が整えられていると思う。



5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

この報告書はとても読みやすく詳細に書かれていてよいと考えた。特にこれからの経営方針を詳細に述べて計数目標なども細かく定めている点は顧客にとっても良いことであると思う。女性管理職比率などの目標も定めていけばよいと思う。また、女性だけでなくシニアの人や、障害者の方を働きやすくしている改革にももう少し触れてくれるといいかもしれない。また全体的に読んでいて感じたのはこれからの経営戦略や将来どのような姿を群

馬銀行が目指しているのかということは全体的に書いてあったのだがそちらの比重が大きすぎて、これまでのやってきたことや現状について述べているところが少なかったのはもうちょっとバランスをとっても良いのではないかと思う。過去の政策とこれからの政策との相違を浮かばせて何を変えたのかというのを示せばより理解がしやすくもっとよい報告書ができると思う。